

今年3月から新総代をお引き受けくださった宮元忠佑さんをご紹介します。

新総代です！

宮元 忠佑さん（犀川木井馬場）



宮元さんは昭和14年4月生まれで、もうすぐ82歳。旧犀川町役場に勤めておられたので、地元の方はよくご存知のことと思います。

現在、上木井営農組合の組合長をなさっており、趣味は身体を動かすことだそうです。

奥様の雅子さんは一緒に本山にお参りしましたので坊守とも旧知の仲ですが、忠佑氏ご本人は坊守と初対面だったそうで几帳面にマスクをはずしてご挨拶をいただきました。

黒瀬信敏責役や元総代で来てみてギヤラリーの実行委員長を引き受けてくださった吉田正和氏とも同級生だそうです。他の総代さんとも言葉を交わすことは初めてでも、地元のこととはよくご存知ですぐに打ち解けておられました。

「わからんけ、よろしくお願いします」と、実直で真面目なご挨拶をいただきました。

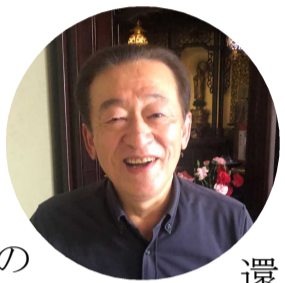


今回はもうお一人、遠賀町在住の原保生さんをご紹介します。

お彼岸にお参りしました

遠賀町在住の原保生さん宅には、親御さんお二人が健在であった頃からお彼岸とお盆にお参りしています。また月に一度は上高屋にあるお墓掃除に来られるとか。

原さんは昭和33年生まれで、福岡教育大附属小学校で鍛えられ、美術教師として教員生活一筋、最後は小学校長をなさっていました。定年後の現在は畑仕事や焼き物教室に通ったりして危機管理のエキスパートとしての教員時代の疲れを癒しておられる様子。料理が得意で住職にも手作りのトコロテンをことづけて下さいます。



お父様、健之助さんは平成28年に還浄なさいましたが、住職をいつも待っていてくださいました。お母様のオサキさんはしつ

かりした働き者で、必ずお彼岸やお盆にはご仏前を送ってこられ、またお参りの住職をもてなして下さっていました。夫の健之助さんをととても大切にしておられ、またももとの性分もあつたでしょうが人に親切に接して信頼関係を築く努力をしてお

られました。その姿勢に住職もお育てをいただきました。現在は施設に入っておられます。

仏様を大事にするということは、人としての温もりを大切に出来たことでしょうか。二人とも、故郷を離れてどれほど頑張ったのかと想像されます。

原先生の教員時代のご苦勞を支えたのはご両親と同居して来られた奥様やお子さん達ご家族なのと言うまでもありませんが、ご両親の生きざまから伝えられた人間への信頼と自信を自身も努力して探り当てて来られたからこそ激務に耐えられたのではないかとお話しをお伺いして感じさせられました。

物事に当たった際の対応は、その人の歴史が自ずから現われます。今回のお彼岸のお参りは、また深いものに遭遇させていただいたご縁でした。



コロナに立ち向かう医療従事者に贈る詩

尾形絃光

新奇病魔立敢然

櫻花時節冒扶桑

人類脅威如戰場

医療担当超職分

自珍不斃断裁殃

新奇の病魔に敢然と立つ

櫻花の時節 扶桑を冒す

人類の脅威 戦場の如し

医療担当 職分を超え

自珍不斃 殃を断裁す



ようやく春らしい気候になりました。今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。昨年度はコロナコロナと、何処に行こうにも何をしようにもウイルスを気にし、とても自由な生活を送れたとは言えない日々を過ごしたことと思います。



村上 宣

私はつい先日3月18日に

「大谷専修学院」を卒業しました。学院での生活は本来であれば全寮制で、互いに好む好まざるがありつつも関係を深めていくという、そんな場所なのですが、コロナという事があり、その生活はほとんど送れず、通信制の授業となりました。最初の内は気が楽で大変結構といった気持ちだったのですが、その生活を続けるうち、何とも味気のない日々を過ごすだけとなり、ひどく寂しく思っていました。

コロナということが生活の主体となり、健康を気にして行くのは大変よろしいことなのですが、それだけでは寂しく思う私がいちわけです。思うに、昨年度は多かれ少なかれ、皆さんも同じような寂しさを抱えていたのではないのでしょうか。

新しい年度が始まり、ワクワクンも少しづつ回り出した今日、昨年度の寂しさを埋められる程に人と関わり、昨年度は会えなかった人、行けなかった場所に面倒くさがらず、積極的に行動できたらと思っています。

(念信寺若院)



専修学院を卒業しました

